

8-4-29 環境配慮専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 環境配慮専門委員会の開催

専門委員会は12回開催した。

(2) マネジメントセミナー

セミナーでは、「建設コンサルタントの環境配慮マネジメント」をテーマとして、「環境配慮の手引き2016の活用」について説明した。

最初に「環境配慮の目標」に対する手引きの活用目的を解説するとともに、手引きの構成とその使い方を説明した。2番目に環境配慮に対する建設コンサルタントの役割について、「環境法令の順守・提案」、「利害関係者の連携・協働を実現するための仕組みづくり・コーディネート」、「環境配慮の実現のためのモニタリング及び効果検証」の3点を説明した。3番目に環境配慮の進め方について、業務フローをもとに各工程でISO14001の手順や「環境配慮の手引き2016」を利用した方法などを説明した。さらに「環境関連情報リスト」について、法令による規制や指定状況や自治体の環境配慮制度の運用状況などを説明し、地方道路や都市道路における環境配慮をケーススタディとして活用例を紹介した。最後に「環境配慮レビュー時の環境配慮事項の設定」については、河川や道路事業など11の事業別に配慮事項を説明した。

(3) マネジメントシステムの現状や2015年版の移行などに関するアンケートの実施

協会会員企業のマネジメントシステムの現状や2015年版の移行などを把握するため、システム改善専門委員会と共同でアンケート調査を実施した。

(4) 「環境配慮の手引き2018」の作成・掲載

(2)のセミナー参加者の意見や要望をふまえて、2018年改訂版にむけた最新の環境関連情報の整理や修正を行った。また、改訂された「詳細設計照査要領」からみた環境配慮の視点なども加えた。なお、平成30年3月に協会ホームページの協会会員コーナーに掲載した。

(5) リーフレットの作成

「環境配慮の手引き2018」についての概要や協会ホームページの閲覧方法を紹介したリーフレットを作成し、協会会員企業に配信した。

(6) 勉強会の開催

計画・設計業務におけるグリーンインフラや景観についての理解を深めるため、専門分野の有識者を迎えて平成29年2月13日に勉強会を開催した。慶応義塾大学環境情報学部一ノ瀬友博教授からは、「なぜ今グリーンインフラが注目されているのか」というテーマで、グリーンインフラに関する考え方や国内外の事例に関する話題をいただいた。また、東京大学アジア生物資源環境研究センター堀繁センター長からは、「景観に配慮した街路の計画・設計―「景観の評価」を反映させた「計画・設計」の要点―」について実務的な話題をいただいた。

2. 次年度の活動について

(1) マネジメントセミナーでは、「環境配慮の手引き2018」の活用と最近の動向に関する説明を行う。手引きに関しては最新の環境情報や詳細設計照査要領などについて説明する。また、主な最近の動向として「グリーンインフラ」や「景観配慮」について説明する。これらの先進事例に関して関係者へのヒアリングや現地視察を行い、説明資料を作成する。

(2) 「環境配慮の手引き2018」を普及するために会員企業への周知を図る。また、最近の環境配慮の動向やニーズについて事例を基にして研究し、セミナー資料に活用する。

(3) 上記の方針に沿って「勉強会」を開催するとともに関係者へのヒアリングや視察を行う。

(4) 活動成果を、広く普及することを目的として、学会などへの発表を図る。

(環境配慮専門委員会委員長 荒川 仁)